

八代地域のトマト・ミニトマトの出荷好調！ ～品種比較調査で黄化葉巻病耐病性の地域適応性も検証～

トマト生産量が日本一の八代地域において、令和6年産のトマト・ミニトマトの出荷が10月上旬から始まっています。

令和6年産は、8月から9月の高温や乾燥、多日照によって生育への影響が懸念されていましたが、関係機関による現地検討会や圃場巡回での、根張りを充実させる灌水や適正な草勢をコントロールするための計画的な作業順守、確実な着果を目指した交配処理の指導等により、良好な生育と順調な開花・着果が見られ、好調な出荷となっています。

一方、八代地域においては、タバココナジラミがウイルス媒介する黄化葉巻病の発生が問題となっており、この対策が喫緊の課題となっています。

そのため、八代支部では、これまでも継続して品種情勢に応じた黄化葉巻病耐病性品種の比較調査の展示圃場を設置してきたところであり、令和6年産トマト・ミニトマトにおいても、選抜した品種による収量性や生育特性等を調査し、八代地域の栽培に対応できる品種の検証を行っています。



トマトにおける展示圃場状況
(6品種を試験中)



ミニトマトにおける展示圃場状況
(5品種を試験中)